

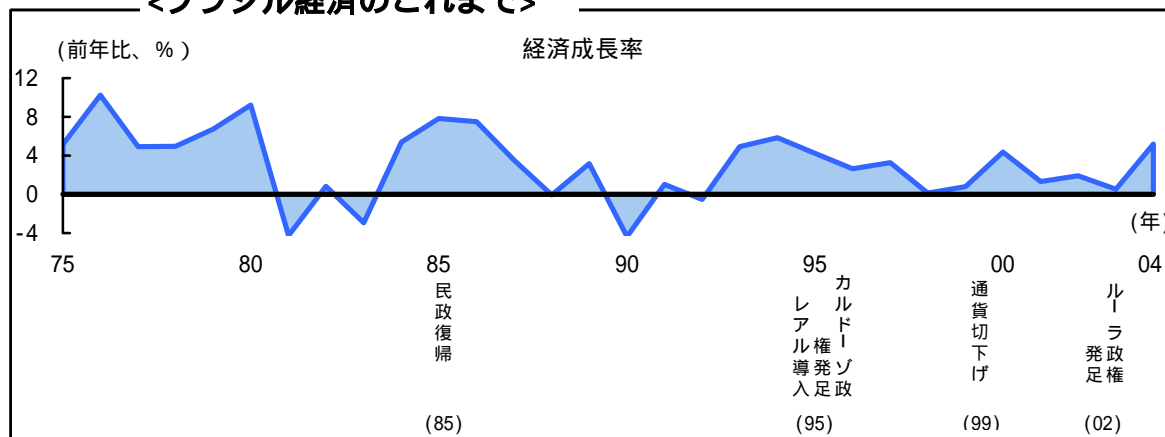
21 ブラジル

Federative Republic of Brazil

<2004年>

人口	1億8,159万人 (日本の約1.4倍)	財政会計年度	1月～12月
一人当たりGDP	2,865ドル	為替制度	変動相場制
産業構造(GDP構成比)	1次産業 9.6% 2次産業 36.6% 3次産業 53.7%	通貨	レアル 1米ドル=3.077レアル
		面積	851.2万km ² (日本の約22.5倍)

<ブラジル経済のこれまで>



ブラジルの主要経済指標

(備考)1. ブラジル中央銀行、ブラジル地理院、ブラジル企画・予算・運営省、IMF“International Financial Statistics”による。
見通しの中央銀行は、“Inflation Report”(2005年3月)、IMFは“World Economic Outlook”(2005年4月)による。
2. 失業率は、2002年より対象が15歳以上から10歳以上に変更となっているため、それ以前と接続しない。

<2004～2005年の経済>

2004年の経済成長率は5.2%と1994年以来の高い伸びとなった。これは2003年半ば以降の金融緩和策の効果により投資・消費が急速に回復したことで、中国をはじめアジアを中心とする一次産品需要の高まりや近隣諸国の経済回復に伴う輸出の拡大等による。

2005年については、2004年9月以降とられた金融引締めの影響により、やや減速することが予想されるものの、消費・投資等内需中心の安定した成長が続く見通しである(中央銀行見通し(2004年9月)3.8%、OECD見通し3.7%、IMF見通し3.7%、民間機関26社の平均3.9%(2005年5月時点))。リスク要因としては、景気回復と原油価格が依然高水準にあることを背景に2004年後半から加速しつつあるインフレが今後予想以上に高まることがあれば、現在の金融引締めが継続し、内需が冷え込むおそれがあること、及び新興市場国債への需要の低下が起こった場合、為替レートに下方圧力を与えるおそれがあることが指摘されている。